

メータオ・クリニック支援の会（JAM） 会報メール 第73号

[2015年5月号]

NPO法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援していただき、誠にありがとうございます。
JAM 会報メール第73号をお送りします。

JAM は2008年3月に発足されたNGOです。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。

支援者の皆様へJAMの最新の活動をほぼ毎月中～下旬ごろ会報メールにて発信いたします。
今後ともどうぞよろしく願いいたします。

<目次>

スタディツアー参加者募集！

メソトマンスリー

国内から

国際保健医療協力のなかで （29）

編集後記

次号の予定



スタディーツアー参加者募集！

今年も毎年恒例のスタディーツアーを開催します♪

今年度のスタディーツアーの担当になりました中村ひとみです。今年もスタディーツアーを開催いたしますので、概要を紹介いたします。

◆ 日程は **9/7(月)～9/12(土)** の **6日間** です。

◆ 定員は **10名**、先着順です。

◆ 申し込みの締め切りは **7/20(月)** です。

◆ 参加費は **80,000円** です。

* ツインルーム1室を2名で利用の場合（友人・知人同士で参加される場合）3000円値引きいたします。ただし、お一人での申し込みでツインルームをシェアご希望の方は、人数の関係によりシングルルームのご利用となる場合がございます。ご了承ください。

* 6月中に参加申し込みされた方は2000円値引きいたします。

* 参加費にはバンコクからメソトへの移動費、現地メソト移動費、宿泊代、難民キャンプ訪問代、コーディネート代、現地での昼食・夕食それぞれ3回分が含まれています。バンコクまでの航空運賃、現地でのお土産代、飲酒代、その他個人的な支出などは含みません。

◆ **JAMの日本人スタッフがバンコクからの全行程に同行**するので、海外が初めての方でも大丈夫です。

* 自由行動の時間を除きます

◆ 内容

日付	予定	食事負担
9/7 (月)	11:00 スワンナプーム空港（バンコク）集合 12:00 ドンムアン空港（バンコク）行のシャトルバス出発 14:00 ドンムアン空港着 16:10 ドンムアン空港発、17:20 メソト空港着 ◆タイ・ミャンマー国境散策 ◆ホテル着 ◆オリエンテーション	朝：各自 昼：各自 夕：JAM



9/8 (火)	<ul style="list-style-type: none"> ◆旧メータオクリニック訪問、シンシア院長との座談会 →現在診療を行っている病院です ◆ワークショップ「国際保健」JAM代表小林潤 ◆難民キャンプについての説明 ◆ミャンマー移民画家マウンマウンティン氏宅訪問 	朝：各自 昼：JAM 夕：JAM
9/9 (水)	<ul style="list-style-type: none"> ◆新メータオクリニック訪問 →現在建築中で、今年移転予定の新しい病院です ◆移民学校訪問 →メータオクリニックやJAMで支援している学校です ◆ゴミ山見学、近くの移民学校訪問 ＜オプション＞夕方：寺院内にあるサウナ案内 	朝：各自 昼：JAM 夕：JAM
9/10 (木)	<ul style="list-style-type: none"> ◆終日自由行動 →国境を越えてミャンマーへ行くことも可能です ＜オプション＞夕方：ミャンマー料理教室 	朝：各自 昼：各自 夕：各自
9/11 (金)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ミャンマー人難民キャンプ訪問（日本人通訳付き） ＜オプション＞夕方：ウィークエンドマーケット見学 	朝：各自 昼：各自 夕：各自
9/12 (土)	午前チェックアウト <ul style="list-style-type: none"> ◆全体の振り返り後、昼食 12：30 メソト空港発、13:40 ドンムアン空港（バンコク）着 16～17時頃 スワンナプーム空港（バンコク）着・解散	朝：各自 昼：JAM 夕：各自

*上記日程は、都合により日時や内容に変更がある場合があります。

あらかじめご了承ください。

*食事欄の「JAM」は全員で食事をします。（ツアー費に含まれています）

*＜オプション＞にはご希望の方のみご案内します。

*9/10の自由行動日に、国境を越えてミャンマーに行かれる方は国境でパスポート、帰国/タイ出国の航空券の提示が求められる場合があります。

◆「JAMのスタディーツアーのここがおススメ！」

- ☆難民キャンプ・難民診療所に行ける
- ☆ミャンマー人難民の生活、現状を知れる
- ☆ゴミ山で暮らす人々の生活を知ることができる
- ☆国際保健関連のワークショップに参加できる
- ☆ノーベル平和賞候補にもなったシンシア医師のお話が聞ける
- ☆NGOで働く日本女子の生の声を現地で聞ける

などなど、JAMでは参加者の皆様が楽しめるようスタディーツアーを企画しています。詳しくは募集要項をメールでお送りしますのでご希望の方は、お気軽にお問い合わせください。国際保健・移民難民に興味のある皆様の参加をお待ちしています。

問い合わせ先： support@japanmaetao.org（担当：中村ひとみ）



メソトマンスリー

【メソト=鈴木 みどり】



最近のメソット

皆様、こんにちは。

お元気でお過ごしでしょうか？日本ではもう梅雨入りですね。こちらメソットではソクランの前から時々大雨が続くことがあります。既に雨期に入っていますが、雨が降らなければ、まだまだ凄く暑い時期で、体力が奪われます。日陰のカフェでは35℃でも扇風機の風で幸せを感じます。

ところで、先月4月28日、読売新聞の衛星版に、メータオ・クリニックの診療補助施設の記事が掲載されました。この施設は、日本政府の草の根・人間の安全保障無償資金協力（以下、「草の根無償」）を受けて、新しい敷地に建てられたビルです。今年3月17日に、在タイ日本大使館の関係者様を招待して、開設式典が行われました。

当団体も関わった事業であり、とても嬉しいことでしたので、今回は新しい病棟について少し書かせていただきます。

草の根無償は、海外でも国際協力に関わる人の間ではとても有名ですが、現地の人々は全く知らないことがあります。彼らにとって、未経験の助成金制度に自分達だけで気付いて申請することは困難なので、2013年度の申請にあたっては当団体がクリニックに紹介させていただきました。

この新しいビルが今までとは別の場所に建つことになったのには理由があります。

メータオ・クリニックが難民達によって、小さな小屋からスタートしてから既に26年…。少しずつ建て増しされたクリニックの衛生面での評価は厳しいものでした。また、近年、クリニック周囲の地価が高騰し、クリニックには大きな負担となることが分かりました。そこで、別の土地に衛生面が配慮された新しいクリニックが建てられることになったのです。

新しいクリニックの敷地では、現在も建設工事が続けられています。これまでに、既に外来と外科・内科病棟、小児科、産婦人科のビルが日本以外の支援で建てられて、診療補助施設はその後に完成されました。今後は遺体安置所、キッチンや託児所なども建てられる予定です。

日本政府の支援で建てられたビルに入るのは、中央薬剤部、感染管理部門（滅菌、消毒を担当）、学校保健部門、ビルマこども医療基金（高額な医療を必要とする移民を支援）、夜勤者の仮眠室です。特に薬剤部と感染管理部門がないと病棟が機能しないため、これらの部門はとても重要な役割を担っています。

新しいクリニックへの移転は、今年後半に、一部の外来と病棟、感染管理部門から少しずつ始まります。しばらくは、両方のクリニックを行きすることになります。昨年度は、全ての部門が移転するのに、おそらく今年11月末まではかかるだろうと予想されていましたが、もっとかかる可能性があります。これからは雨期が本格化するため、移動が困難になることも



予想されます。一昨年のようにメーソットに洪水が起きませんように祈ります。

沢山の人が寄付してくれてできた新しいクリニック、大切に使いたいです。



【写真左】 開設式典でスピーチする院長シンシア先生



【写真右】 完成直後の診療補助施設

国内から

【東京＝伊藤ひとみ】

一昨年にスタディーツアーに参加した伊藤ひとみと申します。昨年の国際保健医療学会に行った時に JAM のメンバーに再開し、縁あって正会員となりました。

私は一度民間企業で事務職をした後に大学に入り直し、看護師と保健師の資格を取得して今年から自治体の保健師として働きはじめました。働き始めて改めて、仕事を持ちながら JAM の活動に携わっている方々はすごいなあ…と感じています。

看護師と保健師の資格を取ろうと思ったのは国際保健に関わりたい！と思ってではありません。実はむしろ敬遠していた分野でした。



支援を必要としている様々な人がいるなかで、一つを選ぶことはできないし、日本での豊かな生活を維持した上での支援に違和感があったからです。それで、長年見てみぬふりをしてきました。

でも、看護系の大学に入ったのをきっかけに、もともと海外旅行が好きだったこと、せつかくの学生時代の長期休暇を有効に使いたいと思ったこと、ちょっと変わったところに行ってみてみたいと思ったこと、そして「看護+海外=国際保健じゃない？」とある意味開き直ってスタディーツアーに参加しました。

支援を必要としている様々な人がいるなかで、一つを選ぶことはできない。

そう思っていました、一步踏み出してみると「知ってしまうと放っておけない」という気持ちになりました。また、自分が一つを選んでも、違うところで国際協力に関わる仲間がいることを知りました。

たとえば私が思っていた以上に様々な支援者や支援団体があり、色々な側面から色々な国を支援しています。また、実際自分が海外に行かなくても国内から支援活動を行っている人もいます。広くとらえれば国内で日本の医療を支えている人がいるからこそ海外に行くこともできます。そんな仲間の存在を頼もしいと思うとともに、何もしないよりもまずは一つでも自分ができることをしていくのが大切だと今は感じています。

今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

国際保健医療協力のなかで (29)

【東京=小林 潤】



アジアは急速な経済成長をとげておりアジア開発銀行は 2025 年にはアジアのほとんどの国は貧困から脱すると報告している。現在注目されているフランスの経済学者ピケティは 2050 年にアフリカ地域以外は、ほとんどの国でヨーロッパと同じ経済状況になると報告している。

ではなぜ難民はなくなるのだろうか。ミャンマーからの経済難民や移民が収まらないだけでなく、世界をみればシリア、ソマリア等からの難民は増え続けている。シリア難民は昨年には 300 万人を超えていると報告されている。民主化の動き等が全くみえなかった 2007 年のミャンマー難民が 15 万人超と報告されているから、この数の多さが認識してもらえのだろうか。さらにイスラム国 (ISIL) の恐怖が伝えられてから、国際保健の道を目指す大学院生を送る地域と国はますます限定してきてしまっており、それなら何故この仕事をしているのかと無力感に襲われることがある。シリア騒乱 (内戦・危機) は 2011 年に始まり、チュニジアで起きたジャスミン革命の影響によってアラブ諸国に波及したアラブの春のうちの一つであるといわ...れていた。しかし実はその 3, 4 年前から予想されるべきものだったというのだ。シリア騒乱は、気候変動が引き起こしたかつてない規模の干ばつが要因である。そう主張する論文が、国際的に権威のある米国アカデミーが出版している科学雑誌PNPS「The proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America」に今年掲載された (Colin P Kelly et al 2015)。シリアの水の安全保障と農業問題はすでに窮状に陥っていたが、2006 年後半に始まった深刻な干ばつが 3 年にわたって続きこの状態を深刻な状態に悪化させ、150 万人近くの農民が、都市に近い地域への移住することを余儀



なくされた。開発途上国の都市経済は貧困層をささえきれていないのが一般的現状で、ここに加わった移動人口を支えられなかったのは容易に想像がつく。事実、シリアでは都市やその周辺地域の治安を不安定にした。また干ばつは食料価格の高騰を招き、栄養問題が蔓延することになった。そして、この論文では“3年続いた深刻な干ばつが起きた確率は、人間活動による地球温暖化によって2-3倍も高められた結果だ”という説を長期的なシミュレーションによって科学的に示している。難民の発生にはいろいろな政治的・社会的要因がからまっていることは確かであるが、飢饉が影響していることは昔から言われてきたが、今回これが地球温暖化の影響でもあることを科学的に解析し報告されたのである。

私自身の方向性を昨年から大転換をはかって、環境と災害に焦点をあてた研究と活動をしてきた。この論文が3月にだされてから、今年度も続けるべきものだと確信している。フィリピン・マニラにいったらコンビニの袋は昔ながらの茶色い紙袋になっていた。バングラデッシュの首都でもプラスチックの袋は殆どつかっておらず人口過密の汚い街が綺麗になってきている。今日スーパーに買い物に行くときはマイバックを忘れないようにしましょう。

編集後記



写真のせんべいは、大仏鉄道せんべいといいます。

大仏鉄道とは、今から、100年以上昔、明治31年から明治40年までの短い間、奈良で運行していた路線です。

大仏とは、もちろん、東大寺の大仏です。

今は、大仏駅の跡地は、公園になっています。

聞くとところによると、鉄道マニアのなかでも、廃線好きにとっては、注目すべき廃線なんだそうですが、いろいろ当時の資料が少ないようで・・・

で、このおせんべいは、その大仏駅だったところの近くで売られています。甘い和風のクッキーみたいなおせんべいです。地元のお菓子屋さんが手作りで作っているので大量生産はしておらず、とってもおいしいのです。

奈良にお出かけの際は、ぜひご賞味ください。

次号の予定



